

## 熊野を楽しむ達人の会 第31回例会 記録

### 『立間戸谷の絶景』

～源助滝・牛鬼滝を巡り、屏風滝と屏風岩を目指す～

実施日：平成20年5月17日

場所：熊野市紀和町和気 立間戸谷

ガイド：山川治雄氏（熊野市）・中村稔氏（熊野市）

参加者：男性6名、女性4名

（高槻市、串本町、古座川町、新宮市、紀宝町、御浜町、熊野市）

三重・紀南エコツーリズムのガイド、山川治雄さん、中村稔さんが「新緑の季節にぜひ絶景を見ていただきたい。」との思いで、今回で3度目になる『立間戸谷の絶景』を実施しました。

実施日の2、3日前に雨が降り、雨量が多かったため、山川さんと中村さんが前日に様子を見に行ってくれました。谷は普段に比べ水量も多く、いつも水がないところが流れになっている場所が何ヶ所もあり、また滑りやすくなっているため、何ヶ所かにロープを掛け、倒木を利用して橋をかけてくださいました。



当日は良い天気恵まれ、絶好の日和となりました。右岸の杉林を通り抜けて谷を渡り左岸に向かいます。昨日掛けた橋を渡りしばらく苔むした岩がゴロゴロしているところを登り、重なりあった岩の間をくぐりぬけると、急に視界が開けます。この谷の両岩壁は柱状節理の岩が立ちはだかっています。谷幅いっぱいに太古に崩落した岩々が重なり合ってきたこの岩場も素晴らしい眺めです。ここで休憩をして次に向かいます。

しばらく苔むした岩場の急な登山道を行くと水の流れる音が聞こえ、音を頼りに道から外れて下っていくと源助滝に着きました。いつもなら滝つぼが無いので滝の真下までいけるのですが、水量が多いため、滝の飛沫がかかり岩が濡れて滑り、川の流れも何ヶ所かにできているた近づくことができませんでしたが「素晴らしい景色やねえ!」、「飛沫が気持ちええなあ。」という声があがりました。



源助滝を後にして進むと途中に炭焼き窯の跡が見られ、切り立った岩場に石を積み上げて作られた道を通ります。樺の大木が川の真ん中に生えているところで休憩を取りました。ここも流れが昨年とは様子が様変わりしており、樺の根元に流れができていました。この木を見ていると幾度となく変わる川の流れに耐え、厳しい環境の中で根を張っているたくましさ感動します。

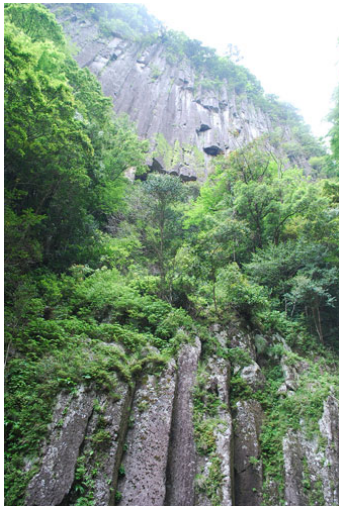
ここから牛鬼滝へ向かいましたが、やはり水量が多いため、山川さんと中村さんが川を渡るためのルートを変えました。道の無い斜面のガレ場を登ります。後から来る人に石を落とさないように慎重に進みます。牛鬼滝に着くと、ここも迫力がありました。今来たルートを引き返し屏風岩と屏風滝を目指します。



屏風岩と屏風滝が今回の最終目的地です。ここへ向かうには谷間に堆積している岩々を少しずつ登っていきます。

いつもなら登れるところに水が流れていたり、湿り気があるため乾いているように見える岩でさえ滑ります。ここも慎重に進み左手に屏風岩が見えてくると歓声が上がります、少し登ると

屏風滝に到着しました。今回の屏風滝は水量が多いため圧巻でした。どここかも飛沫がかかり、乾いた岩場が全く無く滑ります。ここでも滝の真下にいけないほど水が多く、いつもとは違う滝の姿でした。



参加者の方々も口々に「地元に住みながらこんな素晴らしい滝があるのを知らなかった、今日来て良かった。」「自分たちだけでは来れないなあ。」「滝が倒れて



かぶさってきそう。」など言っておられました。ここで岩と滝を見ながら昼食をとりました。今回は残念なことに水量が多いため飛沫が多く、また流れも深く、岩も滑るため屏風滝をバックに写真を撮ることができませんでした。

下山も慎重に一步一步ゆっくりと進みました。登山口に全員ケガなどもなく無事に到着しました。「今日、通ったところが記憶に残っているうちにもう一度、訪れたい。」「本当に絶



景でした。」「毎回、熊野に来るのが楽しみです。」などの感想をいただきました。

いつも例会の前になると参加者に安全に楽しく過ごしてもらえるようにと、何度も足を運び、谷や山の様子を見てロープを掛けてくれたり、橋を渡してくれたりする山川さん、中村さんのお心使いと自然の中で過ごすためにお互い協力しあい、マナーを守ってくださる参加者の皆さんのおかげで今回も素晴らしい、旅の一日を過ごすことができました。

(宮本)